



平成 26 年度 文部科学省委託事業「体験活動推進プロジェクト」
青少年体験活動奨励制度

2016 年 3 月 30 日



CONTENTS	■ 青少年体験活動奨励制度推進表彰式 p1	● BRUNCH p3
	■ 受賞者の声 (参加者アンケートより) p1	■ 制度のご紹介 p4
	● AWARDS Perspective (制度の仕組み) p2	■ アワード参加者状況 p4
	● AWARDS Report (参加者の活動報告) p3	

青少年体験活動奨励制度推進表彰式



2016 年 3 月 15 日 (火) に平成 27 年度青少年体験活動奨励制度修了者の表彰式を文部科学省にて開催しました。6 ヶ月の活動を自ら計画し、目標を立て、実施し、反省・記録するという一連の活動を実施してきた参加者たちは、昨年同様とても晴れやかな顔で修了証を受け取っていました。

また、参加者の中から東日本ランチである東京学芸大学の麻生氏と立命館大学の和田氏が活動報告をおこないました。麻生氏はオーストラリアの短期留学におけるポタニカルガーデンでの活動と、マリンスポーツを通じての仲間とともに大自然の中での体験を「自然体験」として発表し、関西ランチの和田氏も柔道指導

を通じての教えることの難しさや新たな価値への創造として、「精力善用・自他共栄」の認識などについてふれ、自分が得たこと感じたことなどを報告しました。

また、各ランチでも同様に表彰式が開催され、それぞれの地域で活動を修了した青少年が修了証を授与された。各ランチの表彰式でも活動を無事修了した青少年達の表情が生き生きしているように見え、授賞式は厳かな雰囲気ではあったが修了証を受け取った際の表情は達成感に満ちていました。



参加者の声 (参加者アンケートより)

平成 27 年度参加者の方々に本制度に参加した感想をお聞きしました。以下、掲載します。

- ・ 家族から最近「イキイキ」しているね
- ・ 活動目標を設定し継続できたことは、自信になった、今後も続けたい
- ・ 活動は大変だったが、達成感の方が大きかった
- ・ 活動自体は頑張ったが、振り返る時間がなかった
- ・ 助言、アドバイスが良かった
- ・ この活動に挑戦したことで、大学生活に意味を持たせることができた

活動領域からみると、自然体験活動、ボランティア体験活動の 2 領域は活動の場の設定や日程調整の難しさ、あるいは継続することの難しさ、何をすればいいのか、何がダメなのかが分からなかったという回答がありました。今後の制度の構築の参考とさせていただきます。上述のことから、体験活動を修了したことで、達成感や成就感あるいは継続力などを認識でき、学生生活に活気が出たなど肯定的な感想が比較的によく示されました。また、アドバイザーとの連携やコンタクトの重要性、さらには、青少年体験活動奨励制度の普及啓発活動や広報の大切さが示されていました。

H27年度の参加者数

今年度修了者数／参加者数

366/465

アドバイザー人数

42人



AWARDS
Perspective

制度の仕組み

制度のご紹介

青少年の体験活動を後押しするために文部科学省の委託事業として平成25年度から始まった制度です。14歳から25歳の青少年を対象に、「自然体験、運動体験、ボランティア体験、教養体験」という4領域の体験活動について、総合的に一定期間継続することで、その達成を記念する修了証が文部科学省から授与されます。

14歳から25歳の青少年が対象

4領域の体験活動を総合的に実施

活動の実績を文部科学省が表彰

※海外留学や海外での就職への活用も視野に入れ、国際的な体験活動の評価制度である英国エディンバラ公国際アワードの同時取得が可能です。

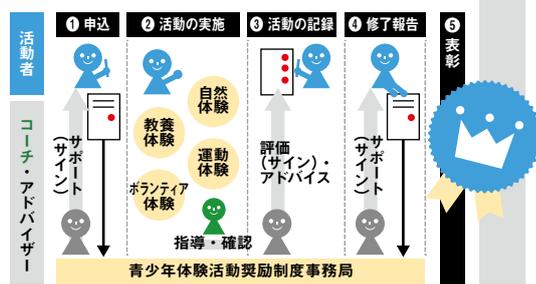
活動概要

青少年が自ら計画を立て、アドバイザーと相談しながら継続的に体験活動を行う制度です。

活動のポイント

- ①自分で目標と計画を立て、自主的に活動すること
- ②アドバイザー（＝活動をサポート、アドバイスする大人）に相談しながら活動を行うこと
※申請時の提出物、活動中の記録にはアドバイザーのサインが必須です
- ③各領域の活動はコーチ（＝活動を確認・指導する大人）に確認してもらいながら行うこと
- ④運動体験・ボランティア体験・教養体験の領域は、継続的に活動すること
- ⑤活動を記録しながら実施すること

活動の流れ



4領域の詳細

自然体験	運動体験	教養体験	ボランティア体験
<p>【概要】 普段の生活とは異なる自然豊かな場所で、宿泊を伴って自然と楽しく触れ合ったり、自然を探索したりすることを目的とする活動</p> <p>【必要時間】 1泊2日以上 (1日6時間以上の活動) ※事前の企画や準備、練習をきちんと行う必要があります</p> <p>【活動例】 野外活動、自然・環境学習活動、農業・漁業体験等</p>	<p>【概要】 スポーツやトレーニング等、心肺的・肉体的負荷があり、健康促進、運動機能向上を目的とする活動</p> <p>【必要時間】 1週間に1時間以上の頻度で3ヶ月～6ヶ月間継続</p> <p>【活動例】 ・マラソン大会完走を目指すランニング ・脂肪燃焼を目指すウォーキング等</p>	<p>【概要】 知識や技能を高める活動や、教養や趣味を深める活動等、自己研鑽を目的とする活動</p> <p>【必要時間】 1週間に1時間以上の頻度で3ヶ月～6ヶ月間継続</p> <p>【活動例】 資格取得、検定受験、音楽活動、日本文化の会得、技術向上等</p>	<p>【概要】 他者への奉仕やサポートを目的とする活動</p> <p>【必要時間】 1週間に1時間以上の頻度で3ヶ月～6ヶ月間継続</p> <p>【活動例】 教育支援、地域支援、高齢者支援、子育て支援等</p>

※運動、教養、ボランティアの3領域中2領域は3ヶ月間、1領域は6ヶ月間以上の活動が必要になります。



JACTES PARTNER NEWS

参加者の方々から、

- 受賞時の活動内容
- 活動を通じて感じたことを表彰式で発表していただきました。



AWARDS Report



ReportNo.0001

修了者の活動報告



修了者：麻生実来さん

青少年体験活動に参加し、ボランティア体験、自然体験、運動体験、教養体験を行いました。話したいことは、たくさんありますが、今日は、自然体験、運動体験、教養体験についてお話しします。自然体験では、オーストラリアのケアンズで行いました。マリンスポーツに挑戦したり、たくさんの自然に触れたりしました。この自然体験から、「自然と一体になることで自分を見つめ直すことができました。

また、自然に生かされていることを知りました。そこから、自然を保護する大切さを学びました。運動体験では、心身の健康のために「アルティメット」に挑戦しました。アルティメットとは、フリスビーを用いた競技のひとつで、チームワークとスピード感が重要な競技です。結果を求めるのではなく自分の向上のために、「楽しんでやること」を心がけました。その結果、U20 アルティメット日本代表に選ばれました。

教養体験では、いろいろなことを学ぼうと思い、+BIZというビジネス体験に参加しました。実際に企業の方にプレゼンテーションを行うことは、緊張感もありましたが、ワクワク感も大きかったです。これを通じて、チームとして動くことの難しさ、一方で、チームだからできることもあるということ、企業コーチの講義やアドバイスから得た戦略、考える力や社会人としてのあり方も養われました。

そして、今までの自分の考え方にも変化が生じるようになり、将来の夢にも変化が出てきました。体験活動全般を通じて、とにかく hungry!そしてチャレンジ!することの大切さ、物事を継続していく力や課題を探究する力、他者との関わり方とその大切さ、やること1つ1つに意味を生み出すということを知りました。この体験活動での経験を今後に生かしていきたいと思います。



Report No.0002

修了者の活動報告



修了者：和田菜摘さん

この体験活動に参加したきっかけは、母からの紹介でした。継続する力をつける、課題探究・解決力をつける、目標達成への成功像を身につけることができるということで、体験活動に参加してみました。

体験活動では、運動体験として、筋力をアップしパフォーマンスへの向上につなげることで、教養体験として、保育士試験のためにピアノを上達すること、自然体験では、オーストラリアでの自然を感じ日本との違いを発見することという目標を立てて、それぞれの領域に挑戦しました。これらについて話をしたいところですが、時間の都合もあるため、今回はボランティア体験について紹介します。

ボランティア体験では、子供たちと直接触れ合いながら、子供たちの運動向上を手伝い、ひとりひとりの柔道パフォーマンスをあげ、日本の国技である柔道を違う国で感じ、その実態や考え方の違いを発見することを目

的としました。そして、練習内での指導、練習試合での引率教員と審判を務める、ケガに対するケアを行う、トレーニングメニューを設定し、一日のノルマを決める、オーストラリアの道場でジュニアクラスの手伝いをするといったことを行いました。

この体験を通じて、感覚的・直観的のパフォーマンス、技術習得のための理論、客観的な動作の確認、自分にあつた技の調整、心の持ち方を学びました。一方、海外では、日本の柔道と異なる様相があることに気がつきました。それは、負けることをマイナスと捉えていることです。「精力善用」「自他共栄」「礼節を尊ぶ」という言葉があります。こうしたことが世界に広がれば、争いのない世界を築けるかもしれません。この体験活動を通じて、学んだことは大きかったと思います。

アドバイザー講座

- ◆ 2015年7月19日(土) in 奈良 奈良教育大学
- ◆ 2015年7月20日(日) in 岡山 中国学園大学
- ◆ 2015年8月7日(金) in 札幌 札幌大学
- ◆ 2015年7月11日(土) in 東京 東京学芸大学

各ランチにおいて、アドバイザー講座を開催しました。講師は奈良教育大学教授・高橋豪仁先生、中国学園大学准教授の中田 先生、札幌大学教授の山田先生、東京学芸大学教授鉄矢悦郎先生にご登壇頂きました。制度に関してのお話と、青少年の育成における体験の必要性についてご講義を頂きました。講義後のディスカッションの際は青少年の体験をどのように支援していくかについて参加者間での積極的な意見交換が行なわれました。

皆様の活動をご報告ください

今後も全国の参加者の皆様の活動をご紹介します。皆様からの活動レポートを事務局までお送りください。

- 制度に参加して良かったこと、自分の活動に活かされたこと
- 現在の活動内容/○今後の抱負

⇒FAX:042-329-7605
⇒Email:info@jactes.or.jp

BRUNCH



北海道ランチ【札幌大学】

住所：北海道札幌市豊平区西岡三条7丁目3番1号
電話：011-852-1181

東日本ランチ

【一般社団法人教育支援人材認証会本部事務局】

住所：東京都小金井市貫井北町4-1-1(東京学芸大学内)
電話：042-329-7605

関西ランチ【奈良教育大学】

住所：奈良市高畑町
電話：0742-27-9105

中国ランチ【中国学園大学】

住所：岡山県岡山市北区庭瀬83番地
電話：086-293-2508

■英国エディンバラ公国際アワードアドバイザー講座

本年度も青少年体験活動奨励制度のもうひとつの要となる英国エディンバラ公国際アワードアドバイザー講座が、7月11日、7月19日、7月20日、8月7日、の4日間、4プランチで行なわれました。

また、英国エディンバラ公国際アワードから講師として関口純氏、をお迎えし、研修会を開催しました。研修会では講義の他にグループディスカッションを通して信頼関係の構築やコミュニケーションの基礎について学びました。

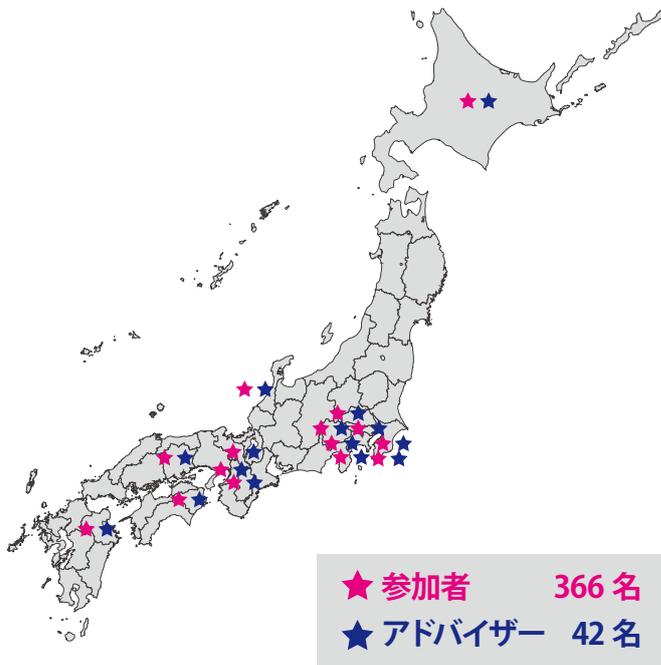


講座の様子

【英国エディンバラ公国際アワードについて】

英国エディンバラ公国際アワード(以下、国際アワード)は1956年にイギリスで開始された若者向けの評価制度です。自分自身で目標を設定しこれに挑戦していくという形式はエディンバラ公自身の体験や直接的な経験から意味を見出すプロセスである「経験学習」の理念に基づき、ボランティアを行なう若者や関連組織との協力を経て確立されました。制度の目的は青少年が社会的・自己啓発的な活動に自らの意思で参加して、複数の領域に参加する事でバランス感覚を養い、青年期から成人期の難しい時期を乗り越えることを目指しています。この基本的原則は変わっていませんが、活動内容と評価や授与の方法は社会からの要求と、若者の様々なニーズに適応しながら進化を続けています。国際アワードは現在世界をリードする若者の業績を評価する仕組みとして認識されており、各地で若者に働きかける組織によって活用されています。その形式は国によって様々で、ポルトガル、フィンランドでは、独自の国内タイトルで行われており、日本も国内タイトルという形で表彰を行い、その業績を国際アワードと結びつけるというポルトガル、フィンランドと同様の形を採用しています。

■青少年体験活動奨励制度 参加者状況



●H27年度青少年参加者数(新規)

(修了者数/参加者数)
366名/465名

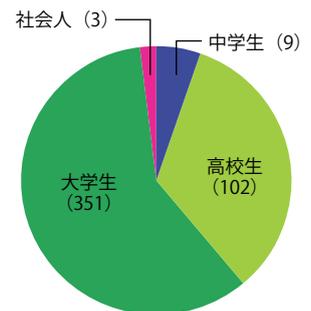
(H25年度からの総数 742名)

●H27年度アドバイザー数(新規)

42名

(H25年度からの総数 182名)

●H26年度青少年参加者属性(人)



●H27年度の活動内容事例

自然体験	星の動き観察/自然遺産の名所めぐり/野外アイススケートリンク作成
奉仕体験	小学校人形劇活動支援/観光支援ボランティア/適応指導教室ボランティア
教養体験	手話の取得/英検2級を目指す/毎週英字新聞を読む/天声人語の要約
運動体験	カーリング技能向上/険しい山道の歩く技能向上/琵琶湖1周サイクリング



青少年体験活動奨励制度 HP ▶▶▶ <http://www.u-gakugei.ac.jp/~codomo/jya/index.html>
Facebook ▶▶▶ <https://www.facebook.com/seisyonen>



教育支援人材認証協会

Japan Association for Certifying and Training Educational Specialists

発行：一般社団法人教育支援人材認証協会

発行日：平成28年3月

連絡先：東京都小金井市貫井北町4-1-1東京学芸大学内

(TEL) 042-329-7605 (Email) info@jactes.or.jp

協会 Facebook :

<http://www.facebook.com/jactes>